

令和 4 年度 学校評価 自己評価書（3 学期）

1 学校の重点目標

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 心身ともにたくましい生徒の育成</li> <li>・ 確かな学力の向上と個性の伸長</li> <li>・ 信頼される開かれた学校</li> </ul>
--

2 課題と改善策

	評価事項	職員	改善策
確かな学力	学習目標とまとめの整合性のある授業を行い、問題解決的な授業に努めている。	B	毎時間の振り返りを文章で書かせるなどし、学習目標を達成するためにどんな工夫をしたのか、どこが難しかったかを考え、次回の意欲につなげたい。
	Shimizu 班活動学び合い・助け合い活動を教科指導等にも積極的に取り入れ行っている。	A	班長を中心に話し合い活動がス行われ、ロイロノートを活用して、班で意見を出し合いまとめることができた。さらに、ICT の活用を進めたい。
	家庭学習の時間確保と確実な実践に向けて、効果的な指導と見届けに努めている。	B	家庭学習改善のためにタブレットを取り入れるなどの取組を各教科で検討し、家庭学習時間を 90 分以上確保させたい。
生徒指導	あいさつや言葉づかい、服装など、時と場に応じた「礼を正す」指導に努めている。	B	生徒の挨拶に対する意識は高く、立ち止まって挨拶をしたり元気よくあいさつをしたりできる。あいさつにとどまらず、生徒が主体的に活動できるようにしたい。
	清掃や緑化、室内の整理・整頓など「場を清める」指導に努めている。	B	衛生面では評価どおり徹底され、感染も防ぐことができた。しかしながら、無言作業の徹底が今後の課題である。清掃作業への意識を高めていく必要がある。
	不登校（傾向）の減少といじめ撲滅に向けて、組織的な取組に努めている。	B	月を追うごとに新規不登校が増加している。学年や学校全体での情報共有を徹底し、早期対策を学年でのチームで確認しながら行っていきたい。
	学校行事や生徒会活動の活性化に向けて、活動の充実と生徒の主体的な活動の推進に努めている。	B	生徒主体の活動により行事などが活性化されている。今後、より多くの生徒の自己有用感を高め、不登校の増加に歯止めをかけるきっかけとしたい。
指導 進路	目的意識を高める進路学習を学年の発達段階に応じて系統的・継続的に行っている。	B	高校入試の時期ということもあり、早い段階から進路について考えさせられた。内容の理解ができていない様子が見られ、個別の指導・支援の工夫が必要である。
体力 保健・安全・	交通事故防止や防火・防災、不審者対策等について指導の充実に努めている。	A	3 学期も大きな事故や災害は起きなかったが、今後も平時から継続して、防災等の意識について高め、不審者対策について計画的に指導を行っていきたい。
	部活動では保護者の協力を得て「心・技・体」のバランスのとれた生徒の育成をめざして取り組んでいる。	B	週に 2 日の休養日を各部活動で徹底しているが、一部保護者からの「休みが多い」という意見があるが、今後も保護者の理解を求めながら、活動に取り組みたい。
連携 地域	家庭・地域・関係機関との連携及び保護者等外部に対する説明責任を十分に果たしている。	B	P T A 活動の大変革が行われたが、引き続き P T A のあり方や活動について、保護者と連携・協議し、家庭教育学級・おやじの会とともに連携・充実に努めたい。

2 次年度に向けての取組

- 本校の大きな課題は、不登校の増加である。今後は、新規不登校の増加を極力減らせるよう、生徒の自己肯定感や自己有用感を高めていくことを目的とした創意工夫ある活動を推進して行くとともに不登校の生徒の学校復帰も進めていきたい。
- ひとり 1 台にそろったタブレット P C の活用を積極的に進め、持ち帰りもしくは自宅 P C を活用した自宅学習に積極的に取り組ませていきたい
- 教科指導において、今後も SHK を充実させ、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業を改善し、話し合う活動を積極的に多く取り入れていくことで、学力向上につなげていきたい。

令和 4 年度 学校評価 学校関係者評価書

1 学校の重点目標

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 心身ともにたくましい生徒の育成</li> <li>・ 確かな学力の向上と個性の伸長</li> <li>・ 信頼される開かれた学校</li> </ul>
--

2 課題と改善策

項目	評価事項	改善策	学校関係者
確かな学力	学習目標とまとめの整合性のある授業を行い、問題解決的な授業に努めている。	毎時間の振り返りを文章で書かせるなどし、学習目標を達成するためにどんな工夫をしたのか、どこが難しかったかを考え、次回の意欲につなげたい。	A
	Shimizu 班活動学び合い・助け合い活動を教科指導等にも積極的に取り入れ行っている。	班長を中心に話し合い活動がス行われ、ロイロノートを活用して、班で意見を出し合いまとめることができた。さらに、ICT の活用を進めたい。	A
	家庭学習の時間確保と確実な実践に向けて、効果的な指導と見届けに努めている。	家庭学習改善のためにタブレットを取り入れるなどの取組を各教科で検討し、家庭学習時間を 90 分以上確保させたい。	B
生徒指導	あいさつや言葉づかい、服装など、時と場に応じた「礼を正す」指導に努めている。	生徒の挨拶に対する意識は高く、立ち止まって挨拶をしたり元気よくあいさつをしたりできる。あいさつにとどまらず、生徒が主体的に活動できるようにしたい。	A
	清掃や緑化、室内の整理・整頓など「場を清める」指導に努めている。	衛生面では評価どおり徹底され、感染も防ぐことができた。しかしながら、無言作業の徹底が今後の課題である。清掃作業への意識を高めていく必要がある。	B
	不登校（傾向）の減少といじめ撲滅に向けて、組織的な取組に努めている。	月を追うごとに新規不登校が増加している。学年や学校全体での情報共有を徹底し、早期対策を学年でのチームで確認しながら行っていきたい。	B
	学校行事や生徒会活動の活性化に向けて、活動の充実と生徒の主体的な活動の推進に努めている。	生徒主体の活動により行事などが活性化されている。今後、より多くの生徒の自己有用感を高め、不登校の増加に歯止めをかけるきっかけとしたい。	B
指導 進路	目的意識を高める進路学習を学年の発達段階に応じて系統的・継続的に行っている。	高校入試の時期ということもあり、早い段階から進路について考えさせられた。内容の理解ができていない様子が見られ、個別の指導・支援の工夫が必要である。	A
体力 保健・安全・	交通事故防止や防火・防災、不審者対策等について指導の充実に努めている。	3 学期も大きな事故や災害は起きなかったが、今後も平時から継続して、防災等の意識について高め、不審者対策について計画的に指導を行っていきたい。	A
	部活動では保護者の協力を得て「心・技・体」のバランスのとれた生徒の育成をめざして取り組んでいる。	週に 2 日の休養日を各部活動で徹底しているが、一部保護者からの「休みが多い」という意見があるが、今後も保護者の理解を求めながら、活動に取り組みたい。	A
連携 地域	家庭・地域・関係機関との連携及び保護者等外部に対する説明責任を十分に果たしている。	P T A 活動の大変革が行われたが、引き続き P T A のあり方や活動について、保護者と連携・協議し、家庭教育学級・おやじの会とともに連携・充実に努めたい。	B

2 学校評議員より

- 校長先生をはじめ先生方の取組に熱意が感じられました。校内も整理整頓が行き届き、環境美化への意識が高く見受けられました。
- 学習定着度調査で、全科目が「+」になっていることに驚きました。個々の先生方の努力のたまものと思いますが、学校一丸となって助け合いながらレベル向上に努められた成果だと思えます。
- 今後も信頼される学校をめざして、地域全体で盛り上げていってほしい。
- 自分の可能性を信じ、目標に向かってチャレンジしていくポジティブな精神を期待したい。